

1 概要

【内政】

- 選挙関連の動き
- ボゴタにおける爆破テロ発生（５日及び２６日）
- 国際赤十字委員会の報告書（２３日）
- 住居・都市・国土大臣の交替（２４日）
- ヒューマン・ライツ・ウォッチの報告書（２８日）
- プトゥマジョ県における軍事作戦（２８日）
- ロシア市民の逮捕（２９日）
- 世論調査結果

【外交】

- ウクライナ在住コロンビア人の退避（１日）
- ラミレス副大統領兼外相が国連緊急特別総会に出席（１日）
- エクアドルとの国境、完全開放（３日）
- 国連人権高等弁務官事務所の報告書発表（４日）
- ラミレス副大統領兼外相のコスタリカ訪問（６－７日）
- 米・コロンビア首脳会談（１０日）
- アイルランドのバラッカー副首相がコロンビア訪問（１４－１８日）
- 国際両大洋フォーラム２０２２の開催（２３日）
- 第２７回アンデス共同体外相会合（２５日）
- ラミレス副大統領兼外相が移住グローバル・コンパクトの閣僚会合に出席（２５日）
- ドゥケ大統領がウクライナ市民に対する経済支援を発表（２５日）
- ラミレス副大統領兼外相のアラブ首長国連邦訪問（２７－３０日）

2 本文

【内政】

（１）選挙関連の動き

１３日に上下院議会選挙及び大統領選候補者選挙が大きな混乱もなく実施された。関連の動きは以下のとおり。

- ・１日 歴史同盟のペトロ候補と自由党のセサル・ガビリア党首が会合するも、何の選挙合意にも至らず。
- ・１日 ロドルフォ・エルナンデス候補（元ブカラマンガ市長）が副大統領候補にマレリン・カステージョ大学教授を指名。
- ・２日 検察は選挙において国外（特にロシア、ベネズエラ、ニカラグア）からサイバー攻撃を受ける可能性に備えている旨発言。
- ・４日 E L N（民族解放軍）は１３日の投票に向け、政治的解決への前向きな姿勢を示すため、政府に対して１０日から１５日まで停戦する旨宣言。
- ・７日 在外投票開始。

・ 10日 イングリッド・ベタンクール候補（緑と酸素の党、元上院議員）が正式に立候補届を提出。副大統領候補にはホセ・ルイス・エスパルサ大佐（2008年にベタンクールを含む14名をFARCから救出したハケ作戦責任者）を指名。

・ 10日 ルイス・ベレス候補（元メデジン市長）が正式に立候補届を提出。副大統領候補には社会活動家のセフェリノ・モスケラ氏を指名。

・ 10日 エンリケ・ゴメス候補（国民救世党）が正式に立候補届を提出。副大統領候補にはカルロス・クアルタス氏（実業家）を指名。

・ 11日 急進改革党のヘルマン・コルドバ党首は、同党が候補者登録変更期限までに党の指導者であるヘルマン・バルガス・ジェラス元副大統領を擁立する可能性を見据え、自らの立候補届を提出。

・ 12日 ジョン・ミルトン・ロドリゲス候補（福音主義牧師）が正式に立候補届を提出。副大統領候補にはサンドラ・トーレス氏（アフロ系人権活動家）を指名。

・ 13日 上下院議会選挙及び大統領選候補者選挙（予備選）当日。大きな混乱もなく投票が実施されたが、2件の爆破事件により軍に2名の死者が出た。また、アマソナス県及びアラウカ県において、治安上の問題により複数の投票所が移動された。

3つの連合が国民にその大統領候補決定を仰ぐこととなった大統領選候補者選挙については、同日中に結果が明らかになり、それぞれ、歴史同盟はグスタボ・ペトロ候補が、中道希望連合はセルヒオ・ファハルド候補が、チーム・コロンビア同盟はフェデリコ・グティエレス候補が勝者となった。

・ 14日 未明に暫定結果が明らかになった議会選挙においては、上下両院において、ペトロ大統領候補率いる左派の歴史同盟が大幅に議席数を伸ばし、上院では最大勢力、下院では自由党に続き第二勢力となった。他方、現与党の民主中道党や伝統的政党勢力である国民統一党、急進改革党は大幅に議席数を減らした。

・ 14日 民主中道党のスルアガ候補は立候補辞退を表明するとともにチーム・コロンビア同盟のグティエレス候補への支持を表明。

・ 16日 民主中道党は、党の投票態度を決定するため、党员の間でアンケートを実施して決める旨発表。

・ 16日 セルヒオ・ファハルド候補が副大統領候補にルイス・ムリージョ元環境大臣を指名。

・ 18日 住民登録庁は開票結果を国家選挙審議会に提出。大統領選候補者選挙の結果は確定したもの、上下院議員選挙による最終的な議席配分は国家選挙審議会が最終発表を行って初めて確定となる。国家選挙審議会は、各党から提出された投票結果の異議申立てについて調査を行い、最終結果を発表する。

・ 18日 ジェラス元副大統領は立候補しない旨表明し、急進改革党は党独自の大統領選候補者擁立を撤回。

・ 23日 国民統一党のディリアン・フランシスカ・トロ党首は、同党によるグティエレス候補支持を表明。

・ 23日 グスタボ・ペトロ候補は副大統領候補に予備選で次点となったフランシア・マルケス候補を指名。ガビリア自由党党首（元大統領）は同日のマルケス副大統領候補による自身に対する批判的発言に反発し、ペトロ候補との選挙合意に向けた対話を打ち切ると発言。

・ 24日 緑の同盟党は大統領選における投票態度を党员個人の自由に委ねる旨公表。

・ 26日 グティエレス候補は副大統領候補にロドリゴ・サンチェス・ララ元ネイバ市長を指名。

・ 26日 マルケス歴史同盟副大統領候補が、麻薬民兵組織「黒い鷲（Aguilas Negras）」に軍事標的にされているとして政府に身の警護強化を要請。

・ 28日 コムネス党（元FARC党）がペトロ候補への支持を表明。

- ・ 29日 ファハルド候補とエルナンデス候補が会談するも、何ら合意成立せず。
- ・ 30日 保守党がグティエレス候補への党としての支持を発表。

（２） ボゴタにおける爆破テロ発生

－ 5日夕方、ボゴタ市シウダ・ボリーバル地区において、警察署前に駐車中であった警察車両に仕掛けられた爆弾が爆発。2名の警官が負傷した他、付近の44家屋が被害を受けた。ボゴタ市警察隊長はテロの背後に ELN が関与している旨言及した。

－ 26日夕方、同じくシウダ・ボリーバル地区の交番でテロ攻撃が発生。交番の外に置かれた荷物が爆発し、2名の子供が死亡、警察官 1 名を含む市民 30 名以上が負傷した。後に、通称「ジョン・メチャ」を指導者とする FARC 分離集団の第 33 戦線が、最高指導者「マヌエル・マルランダ」の命日を記念したテロである旨、犯行声明を行った。これに対し、ロペス・ボゴタ市長は、ジョン・メチャ追跡のための 120 名の捜査官の任命及び巡視強化のための 1500 名の警官の増員等を発表した。

（３） 赤十字国際委員会の報告書（23日）

赤十字国際委員会は 23 日、2021 年報告書を発表し、同年コロンビアでは 2016 年の和平合意締結後最も深刻な爆発物被害、国内避難民数、武装勢力により外出制限されている住民数、行方不明者数を記録し、政府の対応の遅れにより地方で違法麻薬武装集団が着実に支配を拡大していると警鐘を鳴らした。これに対しドゥケ大統領は、人権侵害を行っているのは政府ではないとして、同報告書の内容には同意できない部分が多く、また同報告書は拘束力を持つものではないと述べた。

（４） 住居・都市・国土大臣の交替（24日）

24 日、ドゥケ大統領は個人的理由により辞表を提出したジョナサン・マラゴン住居・都市・国土大臣の後任として、スサナ・コレア・ボレロ社会繁栄庁長官を任命する旨発表した。

（５） ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）の報告書（28日）

HRW は 28 日、ベネズエラに国境を接するビチャダ県、アラウカ県において行った調査結果を発表し、同地域では 2 月・3 月の間に 103 名が殺害されているとして、同地域住民の人権侵害が深刻であるとしてコロンビア政府に対し市民に対する保護の強化を求めた。同報告書は、ベネズエラ軍が ELN を庇護していることにより、元 FARC 離脱集団と ELN との対立と暴力が激化しているとしている。

（６） プトゥマジョ県における軍事作戦（28日）

28 日、軍はプトゥマジョ県において FARC 分離兵に対する軍事作戦を実行したが、コロンビア・アマゾンの先住民全国組織（OPIAC）は、同作戦によって 11 名の市民が死亡したと発表、HRW 等の人権団体が真相解明を求めている。

（７） ロシア人の逮捕（30日）

コロンビア検察は 30 日、マネーロンダリングとボゴタやメデジンでの抗議活動における暴力的勢力への資金提供を行っていた疑いで、ロシア市民セルゲイ・ヴァジンとその他 5 人を逮捕した。本人はデモに参加したことは認めたが、容疑は否定している。これに対し、在コロンビアのロシア大使館は、同人はロシア政府とは無関係であるとする声明を発表した。

（８） 世論調査

【グアルモ・エコアナリティカ社（2月28日～3月4日に調査実施）】

ドゥケ大統領のイメージ	良い、どちらかといえば良い	39.8%
	悪い、どちらかといえば悪い	54.9%
ラミレス副大統領兼外相のイメージ	良い、どちらかといえば良い	25.7%
	悪い、どちらかといえば悪い	67.2%

－ 議会選挙においてどの党に投票するか

保守党	15.3%
自由党	14.2%
民主中道党	12.2%
急進改革党	11.2%
歴史同盟	10.8%
中道希望連合	6.5%
国民統一党	6.5%
MIRA	3.6%
新自由党	2.1%

－ 大統領選候補者選挙（予備選）においてどの連合の誰に投票するか。

歴史同盟	38.4%	グスタボ・ペトロ	81.6%
		フランシア・マルケス	10.5%
		カミロ・ロメロ	5.9%
チーム・コロンビア同盟	37.5%	フェデリコ・グティエレス	33.4%
		アレックス・チャール	29.2%
		ダビ・バルギル	24.1%
中道希望連合	24.1%	セルヒオ・ファハルド	37.5%
		フアン・マヌエル・ガラソ	22.1%
		アレハンドロ・ガビリア	21.5%

【CNC 社（3月18日～19日に調査実施）】

大統領選挙で誰に投票するか。

グスタボ・ペトロ	32%
フェデリコ・グティエレス	23%
セルヒオ・ファハルド	10%
ロドルフォ・エルナンデス	10%
イングリッド・ベタンクール	3%
白票	5%
分からない／無回答	13%

【外交】

（1）ウクライナ在住コロンビア人の退避（1日）

1日、ドゥケ大統領は軍用機をポーランドとウクライナの国境地帯に送り、ウクライナ在住のコロンビア人の待避について調整している旨発言。外務省によれば、1日時点で222名のコロンビア人と31名の家族、計253名が現地に残っている。

(2) ラミレス副大統領兼外相が国連緊急特別総会に出席（1日）

ラミレス副大統領兼外相は1日、国連の緊急特別総会に出席、演説し、全て国連加盟国は、ウクライナ情勢に関し、地球規模の責任感を以て行動すべきであると呼びかけ、「コロンビアは、この正当化できない攻撃に勇敢に立ち向かうウクライナ政府と国民に改めて連帯を示す」と述べた。

(3) エクアドルとの国境、完全開放（3日）

3日、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、エクアドルとコロンビア間の全ての国境検問所が再開した。

(4) 国連人権高等弁務官事務所の報告書発表（4日）

4日、国連人権高等弁務官事務所は当地において、コロンビアの人権状況に関する2021年版報告書を発表した（同報告書は8日に国連人権委員会でも発表）。

コロンビア外務省は同報告書に関し、ベネズエラ移民保護ステータス付与の進捗や経済復興、2022年選挙における16の和平特別議席の創設、和平特別法廷の機能、元FARCメンバーの社会復帰の推進等を成果として認めたことは高く評価できると述べた上で、コロンビアの人権侵害の主な要因は違法武装勢力であり、政府はこれを軍とともに粘り強く取り締まり続け、犯罪網を弱体化させる成果を上げていると主張した。抗議活動において軍によって行われたとされる人権侵害については、調査と判決が確定しない限り、これらを結論づけ、あるいは言及することは適切ではないと述べた。

(5) ラミレス副大統領兼外相はコスタリカを訪問（6－7日）

ラミレス副大統領兼外相は6日から7日にかけてコスタリカを訪問し、アラフエラ市において2022年アンダー20のFIFA女子ワールドカップの会場において世界女性デーの式典に参加した他、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（CEPAL）のアリシア・バルセナ事務局長と会談を行った。

7日にはサンホセ市において、CEPAL各国による第5回持続可能な開発に関するフォーラムに出席し、コスタリカのソラノ外相、アミナ・モハメッド国連副事務総長とそれぞれ会談を行った。

(6) 米・コロンビア首脳会談（10日）

10日、訪米中のドゥケ大統領は、バイデン米国大統領と首脳会談を行った。会談後の記者会見において、バイデン大統領は、コロンビアを米国の「主要な非NATO同盟国（MNNA）」に指定する旨宣言し、これは両国間が緊密な関係にあることの証左であると述べた。また、両国は、西半球が直面する課題に共に立ち向かうと述べ、米国は、コロンビアの和平達成と、全てコロンビア人に反映ある未来を確保するための努力を支援し続けると述べた。これに対しドゥケ大統領は、バイデン大統領によるMNNA指定を高く評価すると同時に、両国が外交関係200周年を迎えることに言及し、同指定によって、二国間関係は更に高い段階へと発展する旨述べた。

(7) アイルランドのバラッカー副首相がコロンビア訪問（14－18日）

アイルランドのバラッカー副首相兼企業・貿易・雇用大臣が14日から18日にかけてコロンビアを訪問し、ドゥケ大統領、ラミレス副大統領兼外相、現地企業家と会談を行った。

(8) 国際両大洋フォーラム2022の開催（23日）

23日、カルタヘナにおいて、ラミレス副大統領兼外相は両大洋フォーラムを主催した。ラミレス副大統領兼外相はコロンビア大洋委員会も率いており、調査研究の推進や海上技術刷新に関する知識を吸収し、各国のグッドプラクティスを共有することのできる好機である旨述べた。

(9) 第27回アンデス共同体外相会合(25日)

ラミレス副大統領兼外相は25日、キトにて開催された第27回アンデス共同体外相会合に出席した。会合では、議長国エクアドルのオルギン外相が2021年―2022年の活動計画の進捗を報告し、領事保護及び移民に関するアンデスメカニズムの実施状況のレビューが行われた。

また、拡大会合にはロンバーナ商工観光大臣も出席し、ボリビア、エクアドル、ペルー各国の商工大臣の間で、貿易面での計画進捗状況確認も行われた。

(10) ラミレス副大統領兼外相が移住グローバル・コンパクトの閣僚会合に出席(25日)

25日、ラミレス副大統領兼外相は、モロッコのラバトにて開催されていた、安全で秩序ある正規移住のためのグローバル・コンパクトの閣僚会合にオンラインで参加した。ラミレス副大統領兼外相は、コロンビアの移民政策はコロンビアがグローバル・コンパクトに深くコミットしていることの現れであるとして、5月17日から20日にNYで開催される第一回国際移民検証フォーラムにも積極的に参加する旨述べた。

(11) ドゥケ大統領がウクライナ市民に対する経済支援を発表(25日)

ドゥケ大統領は25日、コロンビアは、NATOの要請を受けて、ロシア軍の侵攻により被害を受けたウクライナ人に対する10万ドルの支援を送ることを発表した。

(12) ラミレス副大統領兼外相のアラブ首長国連邦訪問(27―30日)

ラミレス副大統領兼外相は28日から30日にかけてアラブ首長国連邦を公式訪問し、28日にはドバイで開催された世界政府サミットに出席し、政府における女性参画の重要性についてのディスカッションに参加した他、29日には年次投資会議(AIM)に出席、また閉幕前のドバイ万博のコロンビア・パビリオンを訪問し、同万博事務局長との会談などを行った。

【新型コロナウイルス関連】

- (1) 累計新型コロナ感染者は、3月末時点で608万4916人、死者数は13万9621人となった。
- (2) 11日、新型コロナに対する経口薬であるモルヌピラビルの販売が開始された。また、同時に自宅における簡易テストキットの使用も許可した。
- (3) 14日、独から117万回分のファイザーワクチンが供与された。
- (4) 16日、独から116万2980回分のファイザーワクチンが供与された。
- (5) 22日、独から233万2980回分のファイザーワクチンが供与された。
- (6) 24日、ルイス厚生・社会保障大臣は、12～17歳のブースター接種をファイザーワクチンにて開始することを発表。